令和6年1月1日　　有限会社　あゆみ介護文京　発行

あゆみらいん　第277号

2024年の干支は

「甲辰」

（きのえ・たつ）

2024年（令和6年）は辰年です。動物にあてはめると竜（龍）ですが、竜は十二支で唯一の想像上の動物なのでわからないことも多いですね。そこで、辰の語源や意味、竜の特徴などなど、辰と竜に関する豆知識などを少しご紹介します。

干支（えと）とは？

年を数える十二支のほか、日を数えるための十干（じっかん）という数詞があります。本来、干支とは十干十二支のことで、10と12の最小公倍数である60にあてはめていくもので、干支とはこれら「十二支」と「十干」を組み合わせたもの。60を周期とする数詞であり、暦を始めとして、時間、方位などに用いられます。
2024年は十干が「甲」、十二支が「辰」で、その組み合わせで「甲辰」となります。これは60個の中の41番目になります。

【十二支】「子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥」の12種類で年・月・方角・時間を表す。
【十干】「甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸」の10区分で、等級区別に使われる。

辰は・・・
- 十二支では、5番目
- 辰の方位は、東南東
- 辰の刻は、午前8時を中心とする約2時間（7時～9時）
- 辰の月は、旧暦3月

「辰」という字の成り立ちと「辰年・たつ年」の特徴

「辰」という字は「蜃（しん、はまぐり）」の原字で、二枚貝が足を出して動いている形態を表しており、肉片などが動くという意味があります。
中国の『漢書　律暦志』では、辰は「ふるう、ととのう」を意味する「振」で、陽気が動いて万物が振動し、草木もよく成長して形がととのった状態を表しています。
そして辰（龍）は絶大な権力を持つ皇帝の象徴ですので、辰年は活力旺盛になって大きく成長し、形がととのう年（出世や権力に大きく関わる年）だといわれています。
また、辰の年に生まれた子はリーダーシップを発揮し、出世するとも信じられています。

十二支の中で唯一架空の生き物

辰年は十二支の中で唯一、架空の生き物です。
十二支に辰年が入った理由は諸説ありますが、1つは、もともと辰ではなくワニだったという説があります。中国では龍という漢字はワニという意味も持っており、本来は辰ではなくワニの意味で使われたという説です。

もう1つの説は、辰は中国では非常に縁起の良い生き物であり、権力を意味する動物だというものです。
干支の考え方を広めるために、縁起が良く神聖なイメージがある辰を十二支に選んだという説もあります。

「竜・龍」についての豆知識

「竜」は常用漢字で、「龍」は旧字体。「竜」は「龍」の略字ですが、古字でもあります。
竜は古代中国の神話で神獣とされているので、中国では皇帝のシンボルとなっています。そのため、竜顔＝帝王の顔、竜衣＝帝王の衣服、竜影＝帝王の姿など帝王にまつわるものには竜がつくことが多く、最上級の意で竜を用いることもあります。
また、竜は四神（青竜、朱雀、白虎、玄武）のひとつで、水中に棲むとされ、なき声で嵐や雷雲を呼び竜巻となり昇天し、飛翔します。

竜の姿は「竜に九似あり」といわれるように、角は鹿、頭は駱駝、目は鬼、身体は蛇、腹は蜃（※1）、鱗は鯉、爪は鷹、掌は虎、耳は牛に似ており、長い髭をたくわえ、あごの下に1枚だけ逆さに生えた逆鱗（げきりん）があります。竜はこの逆鱗に触れられるのが大嫌いで、触れられると激高し、触れたものを即座に殺すとされています。（※1）蜃（しん・みずち）とは、蜃気楼を作り出すといわれる伝説の生物。

龍にはさまざまな色があり、守護する方角やご利益が異なります。

東方＝青龍　（技術向上・就業授受）　南方＝赤龍　（勝運向上・成績向上）
西方＝白竜　（金運向上・良縁成就）　北方＝黒龍　（健康増進・家内安全）
中央＝金龍　（運気向上・幸福招来）

辰年に参拝したい神社（東京都）

日本各地に、龍神様を祀る神社や、龍神様が住んでいると言われる伝承の地に神社や寺院があるところがたくさんありますが、東京都限定でいくつかご紹介します。

≪田無神社≫　西東京市田無町3-7-4

田無神社(たなしじんじゃ)は、五龍神が祀られている神社です。

白龍神

赤龍神

これは全国的に見ても非常に珍しいこととされています。
中心の本殿には金龍神、東方を青龍神、南方を赤龍神、西方を白龍神、北方を黒龍神が五行思想に基づき御守護されています。

≪目黒不動尊・龍泉寺≫　目黒区下目黒3-20-26

目黒不動尊の境内には「独鈷（どっこ）の滝」という場所があって、これは開祖の慈覚大師円仁が唐の青龍寺に清らかな滝があったのを思い出し、試みに独鈷（煩悩を砕く仏具）を投げたところ、たちまち泉が湧き出て滝になったと伝えられています。

この独鈷の滝では、銅製の龍口から水が注ぎ落ちていますが、龍と瀧といえば鯉が滝を昇って龍になったという「登竜門」の故事にあるように大きな関係があります。

≪荏原神社≫　品川区北品川 2-30-28

荏原神社は元は、水神様(龍神様)を祀る奈良にある1300年以上の歴史を持つ丹生川上神社から分霊して品川の地に鎮座しています。

荏原神社の屋根の、左側と右側から、龍の彫刻が下を覗きこんでいます。
龍は、雨の神様として扱われており、祈雨・止雨のご利益があるといわれています。

All About、Arts　他より